



陳情による改善活動

地域改善活動：道路の整備・改善、急傾斜地対策、住宅問題、河川環境、草除去など、地域からの陳情対応

みなさまの「声」にお応えします



改善前

小学校の校庭に植えられている松の木が枯れ、その落ち葉が家の雨どいに落ち詰まるとの苦情が寄せられ、区の教育関係機関に要請し伐採を行いました。



改善後

今後の改善

予算が計上されました

今年の横浜市の予算に、戸塚区役所内の2階と3階の階段部分をエスカレーターに変更する予算が計上されています。来年3月までに完成予定です。

私が、戸塚区役所の設計段階から強く要望してきた内容です。

今後の改善要望

戸塚駅西口の住宅公園前の歩道が狭く危険です。今後、歩道の拡張に努めていきます。「市民だれもが安心して安全・快適に暮らせる街」を推進してまいります。



身近でお困りのことがあればご連絡ください

地域活動に積極的に参加

市政報告会を実施し、横浜市と戸塚区の取組みを報告しました。また、参加者から意見・要望をお聞きし、市政に反映してまいりました。



第2回市政報告会



第3回市政報告会

今後も、区民と行政のパイプ役として活動してまいります。

戸塚区探訪 No.2

マンホール

今回、戸塚区マンホール蓋を紹介します。戸塚駅周辺に見られるデザイン(写真)のマンホール蓋。歌川広重の東海道五十三次、戸塚宿を駅選手が駆け抜けるデザインです。ときどき、下を向いて探してみたいかですか。また、最近ではマンホールカードが各自治体で配布され、旅の途中で立ち寄り収集することがブームになっているようです。詳しくは、<http://www.gk-p.jp/mhcard.html>まで。



戸塚区マンホール蓋



横浜市マンホールカード

坂本勝司を支援する会主催で各種行事を開催しています



ゴルフ大会



ぶどう狩り



小江戸川越 バスツアー



成田山新勝寺参拝

坂本勝司を支援する会では、各種行事を企画実施しております。地域の方々と気軽に話せる場を作り、地域の困り事などをお聞きしております。興味のある方は、坂本勝司を支援する会事務局に問い合わせただけで、ホームページを参照ください。



坂本勝司を支援する会

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 200-4
TEL: 045-869-0702 FAX: 045-864-8568
E-Mail: sakamoto-katsuji@themis.ocn.ne.jp

HP: <http://guts-sakamoto.com/>

坂本勝司

検索



Guts! 通信

討論資料

横浜市議員 (戸塚区選出)
坂本勝司 市政報告
2017年 夏号
発行責任者
坂本勝司事務所

未来創生 活力あふれる街づくり

横浜市議員 戸塚区

さかもと

かつじ

坂本 勝司



坂本 勝司プロフィール

1967年 戸塚区生まれ
2011年 横浜市議員 初当選
2015年 横浜市議員 2期目当選

【現職】
市民・文化観光：消防委員会
大都市行財政制度特別委員会
(副委員長)

【地域】
神奈川県バドミントン協会 副会長
神奈川県実業団バドミントン連盟 会長
神奈川県小学生野球連盟 副会長

特集記事 “第1回定例会報告”

坂本勝司のめざす街づくり

定例会報告の詳細は中面をご覧ください。

1

安心・安全・快適

市民だれもが安心して安全・快適に暮らせる街

歩道の波打ちについて

2

福祉の充実

福祉の充実と助け合いの心に満ちあふれた街

タクシー事業者福祉車両導入促進について

3

子育て支援

安心して子どもを産み・育てることのできる街

子どものための予防接種について

横浜・戸塚の未来をあなたとともに

4

地域経済に活力

地域経済が元気で活力にあふれた街

横浜環状南線事業／環状3号線関連について

5

文化・スポーツ振興

伝統・芸能・スポーツなどを通していきいきと笑顔の絶えない街

よこはまウォーキングポイント事業について



出典：横浜環状道路(横浜市道路局)
<http://www.city.yokohama.lg.jp/dcro/kosokudouro/kanjodouro/>



LINE@はじめました!

坂本 勝司の公式 LINE アカウントです。市会議員の活動や街づくりの様子を随時配信中!



特集記事 “第1回定例会報告”

1 安心・安全・快適

道路局関係 【歩道の波打ち】

予算第一特別委員会の道路局において、横浜市内の歩道が駐車場への出入りのために歩道が切り下げられた部分と車道より一段高くされた部分が相互に連続し、あたかも波を打ったかのような形状となっている歩道があります。車椅子やベビーカーをはじめ歩道の円滑な通行に支障を来している点について、道路局に改善を要望しました。

当局からは、歩道と車道の間に設置しているコンクリートのブロックを斜めにすりつける形状へ変更する実証実験を都築区で実施しており、その実験を検証し、取組みを拡大していくとの回答をいただきました。よりよい改善策の確立と早期実現を依頼しました。



わたしは、市民だれもが安心して安全・快適に暮らせる街づくりを推進してまいります。

2 福祉の充実

健康福祉局関係 【ユニバーサルデザインタクシーの普及】

予算第一特別委員会の健康福祉局において、車椅子のまま乗車できるユニバーサルデザインタクシーの導入台数があまり増えていない実情について、普及が進まない理由と普及に向けた取組みについて質問しました。当局からは、ユニバーサルデザインタクシーの認知度が低く、福祉専用タクシーと誤解して乗車を控えるケースがある。

ユニバーサルデザインタクシーを必要とする方の利用を進めるとともに、助成制度を継続し、事業者と連携して乗り場の設置など普及策を検討しているとの回答をいただきました。普及に向けた一層の取組みの充実を依頼しました。



出典：ユニバーサルデザインタクシー (国土交通省)
http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/jidou_koutu/tabid2/ud-taxi/



わたしは、福祉の充実と助け合いの心に満ちあふれた街づくりを推進してまいります。

3 子育て支援

健康福祉局関係 【子どものための予防接種】

予算第一特別委員会の健康福祉局において、女性の社会進出に伴い、保育所や幼稚園で集団生活を送る子供が増えている背景を踏まえ、子供の予防接種について、予防接種の種類・問合せに対する対応・IT利用による接種率の向上など質問・要望しました。当局からは、ロタウイルス感染症・おたふく風邪を予防するワクチンの定期接種化を検討する。本年4月から問合せ対応として

予防接種コールセンターを開設する。予防接種台帳システムを導入し、接種率の維持向上に活用していくとの回答をいただきました。感染症から個人や集団を守るために、予防接種率の維持向上、業務効率の向上を要望しました。



わたしは、安心して子どもを産み・育てることのできる街づくりを推進してまいります。

4 地域経済に活力

道路局関係 【横浜環状南線事業／環状3号線関連】

予算第一特別委員会の道路局において、南線及び横浜湘南南線の開通に対し、多くの市民、物流関係者から早期開通を望む声が多いことから、事業スケジュールと休憩施設の計画について質問しました。あわせて、国道16号から国道1号までの間の環状3号線の整備状況についても質問しました。

しかし、道路構造上、休憩施設を設けるには大きな制約があり、現時点では計画はない。また、日之出橋交差点から国道1号までの整備については、1.2kmの用地の取得後、工事を進めるとの回答をいただきました。早期の開通を要望しました。



わたしは、地域経済が元気で活力にあふれた街づくりを推進してまいります。

5 文化・スポーツ振興

健康福祉局関係 【横浜ウォーキングポイント事業】

予算第一特別委員会の道路局において、市民の健康長寿の延伸をめざして健康づくり施策を推し進める必要があると考え、横浜ウォーキングポイント事業の魅力向上に向けた取組み、平成30年からの第2期の目標について質問しました。当局からは、商店街や市内動物園などと連携し、参加者特典のあるイベント開催に取組んでいる。第2期では、参加者の運動習慣の定着化をめざし、より広い世代に健康づくりを広め、

健康づくりの継続支援に力を入れて取り組む。具体的な目標は現在検討中との回答をいただきました。現在参加されている方の継続参加の取組みと横浜に深く健康づくりが浸透することを要望しました。



わたしは、伝統・芸能・スポーツなどを通じていきいきと笑顔の絶えない街づくりを推進してまいります。

坂本勝司の考え

Thought of KATSUJI SAKAMOTO

2017年度の横浜市の予算が承認され、その予算に沿った事業が現在展開されており、子育て環境の改善、子どもの貧困対策、高齢社会への対応等について議論され、親と子どもを守る責任世代としては、これらの重要性を自分自身の立場でも考える必要があります。

子育て環境の改善 公立中学校での食育

中学生期での健全な食生活は、将来の食習慣の形成、健康な心身を形づくっていきます。横浜市では、「ハマ弁」が今年の1月から全区で実施されておりますが、4月の利用率(喫食率)は1.1%にとどまっています。今後、栄養バランスに優れた「ハマ弁」の喫食率の向上に努めます。また、学校給食の導入についても引き続き検討を進め、子育て支援、貧困対策に力を入れていきます。

子どもの貧困対策 子ども食堂について

現在、日本では17歳以下の子どもの中で6人に1人が貧困状態にあり、毎年その数が増えている現状です。このような中、現在「子ども食堂」が注目を集めています。経済的理由・家庭の事情で栄養バランスのとれた食事を十分に食べられない子どもに食事を

を提供することで子供の食を守り、孤食を改善する目的があります。子ども食堂の運営に参画し、社会・地域で子どもを見守る取組みを推進してまいります。

高齢社会への対応 ダブルケア問題

ダブルケアは、子育てと親の介護、孫の世話と配偶者の介護など、育児と介護を同時に抱えてしまうことです。アンケート調査によれば、今後ダブルケアになる可能性のある人を含めると4割が該当し、その内、仕事も抱えている人が5割であり、その平均年齢は41歳となるそうです。しかし行政では、子育てと介護は別的事象として扱われており、具体的にはダブルケア人口も把握されていないのが現状です。ダブルケアに対する社会的な認知と、子育て、介護が連携した早急な対策が必要です。社会全体の高齢化や晩婚化が背景にあり、精神面・体力面のつらさ、経済的負担など、問題は多岐にわたります。

現在、実態調査を含め、横浜国立大学大学院 相馬直子准教授と市民グループを中心に、当事者が思いや悩みを共有できる居場所づくりや、サポーター制度の創設、ハンドブックの作成等を行うプロジェクトチーム「ダブルケアサポート横浜」が積極的に活動中です。国策として一日も早く、当事者の負担を軽減できる取組みを打ち出す必要があります。私も責任世代として、このダブルケアの問題に全力投球していきます。

